

■ 概況

当週（4月24日～30日）の国際石油市場は、引き続き、米国の関税政策をめぐる混乱、米イラン核開発協議、対露停戦圧力、米国の経済動向、さらに、OPECプラス、特にサウジアラビアの増産への政策転換への動き等を、主要要素として、大きく軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、24日反発の62.79ドルで始まり、25日続伸の63.02ドル後、週明け28日は反落、29日も続落、30日は60ドルを割り、58.21ドルと4年ぶりの安値を付けた。

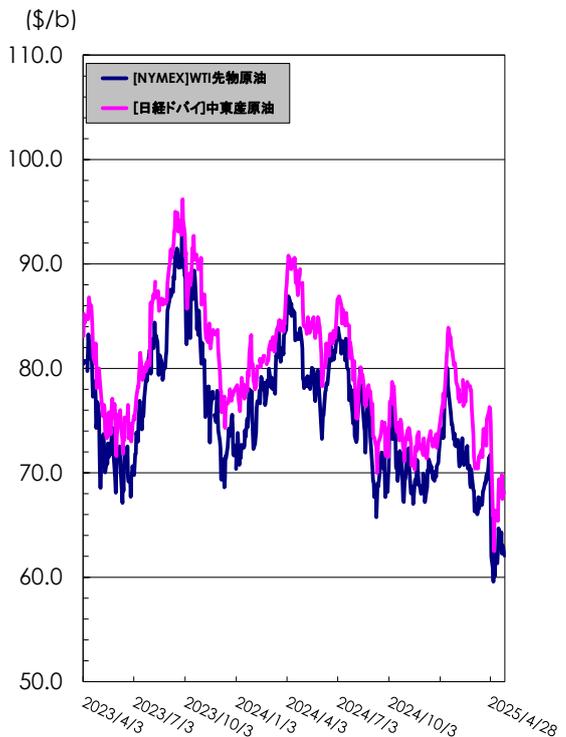
また、中東産バイ原油/東京市場（6月渡し）も、前週（4月17日～23日）は68.10～69.80ドルの範囲で推移したが、当週は、4月24日67.50ドル、25日68.00ドル、28日68.10ドル、30日62.60ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（4月17日～23日）140.96～142.53円の範囲で推移したが、当週は、4月24日142.96円、25日143.11円、28日143.66円、30日142.57円だった。

財務省が4月25日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は75.015円で前旬比1,210円高、ドル建てでは79.61ドルで前旬比0.47ドル高、為替レートは1ドル/149.81円。

そのような中で、4月28日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.6円安、軽油も同0.6円安、灯油は同6円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は184.5円だった。5月1日～14日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、原油価格上昇で増額され、1.1円（補助金がない場合の次週予想価格186.1円で、基準価格185円との差）と、実績ベースでは前週比0.2円の増額となった。

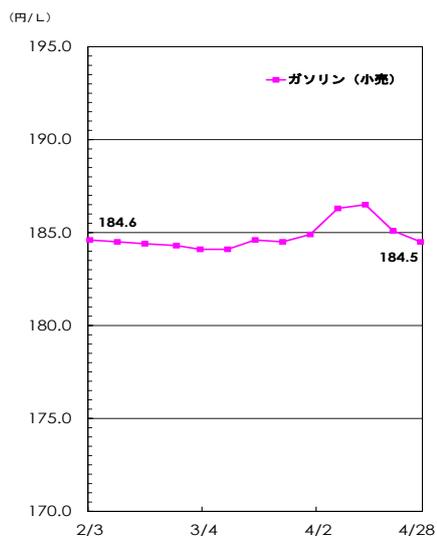
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	週報公表休み	-	-
	トッパー稼働率 (%)	"	-	-
	原油在庫量 (千kl)	"	-	-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	4/28	68.10 ▼-0.20	▼-20.1
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/28	62.05 ▼-1.03	▼-20.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月上旬	79.61 ▲0.47	▼-6.28
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	75.015 ▲1,210	▼-6,855
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.81 ▼-1.54	▲1.74
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/28	144.66 ▼-2.42	▲13.24



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	週報公表休み	—	—
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/22 ~ 4/28	87.0 → 0.0	▲ 4.0
価格	(TOCOM/中部)	4/28	87.0 ▼ -2.0	▲ 7.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	4/28	184.5 ▼ -0.6

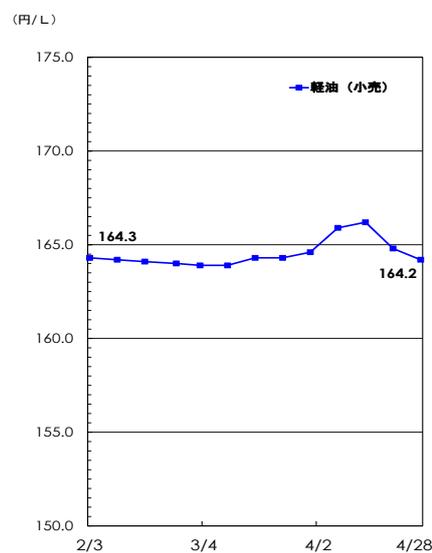
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

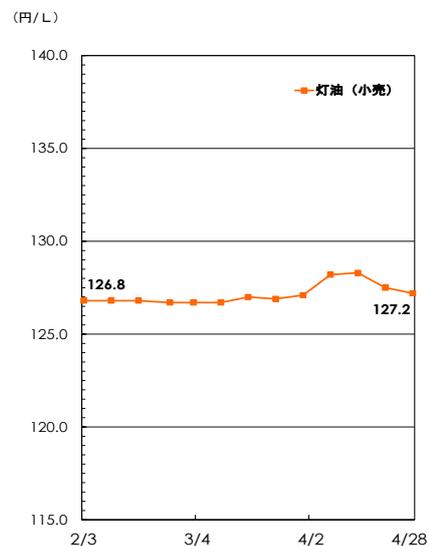
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	週報公表休み	—	—
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/22 ~ 4/28	90.5 ▼ -0.5	▲ 7.2
価格	(TOCOM/中部)	4/28	—	—
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	4/28	164.2 ▼ -0.6

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	週報公表休み	—	—
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/22 ~ 4/28	87.0 → 0.0	▲ 4.0
価格	(TOCOM/中部)	4/28	90.0 → 0.0	▲ 8.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	4/28	127.2 ▼ -0.3



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（4月17日～23日）のNYMEX・WTI先物市場は62.27～64.68ドルの範囲で推移した。

当週、4月24日は、トランプ大統領が、ウクライナ首都キーウへのロシアの攻撃についてプーチン大統領を名指して批判、緊張は高まり、反発した。また、ドル安に伴う原油先物の割安感も買いを誘った。ただ、米中間の関税交渉の停滞感、引き続き上値を抑えた。6月物終値は、前日比0.52ドル高の62.79ドル。

週末25日は、朝方は、OPECプラスの一部加盟国が6月から減産緩和（増産）の拡大を検討中との報道で、売りが先行したが、売り一巡後は、安値拾いの買いや週末のポジション調整の買いで、続伸した。ただ、米中の関税交渉の停滞感は相場の重荷だった。6月物終値は、前日比0.23ドル高の63.02ドル。

週明け28日は、26日の第3回米イラン核開発協議で、初めての専門家会合も開催、合意には時間を要するとしつつも、双方とも積極的に評価、第4回協議を来月3日の開催で合意し、両国の緊張は緩和、また、米中の関税をめぐる対立に新たな進展はなく、世界経済の停滞懸念は拡大し、3営業

日ぶりに反落した。6月物終値は前日比0.97ドル安の62.05ドル。

29日は、世界銀行が、商品市場見通しで、米国の関税政策による経済停滞で、2025年のブレント平均価格は64ドルで前年比20%を下回ると原油価格の大幅値下がりやを予想、また、米国内の雇用統計や消費者信頼指数など経済指標が低迷、さらに、OPECプラスが5月5日の会合で複数加盟国が増産拡大を提案するとの観測から、続落した。6月物終値は前日比1.63ドル安の60.42ドル。

30日は、サウジ当局者が同盟国等に、長期の原油安に対応可能、原油価格の下支えの意思はないと通知、従来の減産からシェア回復・増産に政策転換したとの観測で、3営業日続落、節目の60ドルを割り、4年1か月ぶりの安値を記録した。また、米国経済も、本年第1四半期のGDP速報値が0.3%減と3年ぶりのマイナスとなったことも、値下がりを加速した。米国内石油在庫は、原油が予想に反する取り崩し、ガソリンも予想を上回る取り崩しだったが、大きく影響はなかった。6月物終値は同2.21ドル安の58.21ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による4月30日発表の25日現在の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比270万バレルの取り崩し（市場予想：40万バレル増）、ガソリン在庫も400万バレル減（同：100万バレル減）だったが、中間留分在庫は90万バレル増（同：160万バレル減）となった。

EIAによると、4月28日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.8セント安の1ガロン3.133ドル（119.6円/ℓ）と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比2.0セント安の1ガロン3.514ドル（134.0円/ℓ）と3週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、4月25日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基増の483基となった。

3 国内/原油処理量

（今週の石連週報は、連休につき発表なし）

4 国内/製品在庫量

(今週の石連週報は、連休につき発表なし)

5 国内/元売会社製品卸価格

4月22日～28日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートは円高だったが、元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。5/1からの補助金は1.1円となるが、実質卸価格は値下がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

4月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円安の184.5円、軽油も同0.6円安の164.2円、灯油は18%ベースで同6円安の2,289円(1%ベースでも0.3円安の127.2円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが3都府県、横ばいがなし、値下がり44道府県だった。全国最安値は愛知県の179.0円、その次は埼玉県179.3円であった。他方、最高値は鹿児島県の193.7円。最も値上がりしたのは東京都(同1.8円高)、最も値下がりしたのは徳島県(同2.4円安)だった。

次回調査時(5/12)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/28)	前週 (4/21)	前週比	直近高値
レギュラー	184.5	185.1	▼ -0.6	2023/9/4 2025/4/14
灯油	127.2	127.5	▼ -0.3	08/8/11
軽油	164.2	164.8	▼ -0.6	08/8/4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第6号) の公表は、5/16 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。